

#### 409 <sup>99m</sup>Tc pertechnetate 使用による Sjögren 症候群の診断について。

長瀬勝也(順大 放)  
田中政義, 近藤淑子, 小美野高志, 荒川佳也  
芳士戸治義(順大 中放)  
橋本博史, 広瀬俊一(順大 内)

Sjögren 症候群は涙腺及び唾液腺の分泌減少で特徴づけられ, 乾燥性結膜炎に帰着する慢性炎症性疾患である。

そして本症例の多くは慢性関節リュウマチ等の膠原病を合併すると云われている。

Sjögren 症候群の診断は涙腺では Shirmer 試験等により比較的簡単に検査を施行する事が出来るが唾液腺検査ではガム試験で唾液の排泄量で機能を判定している。

我々は <sup>99m</sup>Tc pertechnetate を使用し30分後の耳下腺, 顎下腺, への摂取及び唾液中への排泄量等についてガム試験と比較検討している。唾液排泄量と R I 排泄量はよく相関する。

一部の症例について唾液の排泄量と耳下腺造影所見等について検討を行っているので, これ等についても, 言及したいと考えている。

#### 410 シェーグレン症候群のステロイド治療における唾液腺シンチグラムの変化(第2報)

筒井重治, 芝辻 洋, 本田泰啓, 吉本正伸,  
岩田和郎, 伏見 至, 高橋仁志, 浜田信夫  
(奈医大、睡放)、土肥和紘(奈医大、1内)

われわれはシェーグレン症候群(Sjs)の診断に対して唾液腺シンチグラム-peak time、酒石酸刺激による反応、初期立ち上り係数-が有用であると報告してきた。今回Sjs患者22例にステロイド療法を施行し、その治療効果を判定する目的で唾液腺シンチグラムを行ない、投与前後の対比と唾液腺造影・生検と比較検討した。方法は、<sup>99m</sup>Tc-pertechnetate 10mCiを静注し、10分毎に動態像を撮像し、50分後に酒石酸を口内負荷した。

耳下腺のpeak timeは治療前後により変化しなかったが、顎下腺において5例に短縮を認めた。sicca alone例では治療によりoral activity出現時間の短縮がみられた。耳下腺、顎下腺ともに初期立ち上り係数は治療により改善を認め、さらに最大摂取量対血流相カウント比も増加傾向を示した。顎下腺での酒石酸刺激による反応は耳下腺での反応より治療効果をよく反映した。治療前の酒石酸刺激による反応が50%以下の群ほど酒石酸刺激による反応の改善度が高くなる傾向が認められた。

#### 411 高齢者における腸管のカルシウム吸収能について

丹野宗彦, 山片 敦, 永島淳一, 西野英夫,  
白木正孝, 野呂俊夫, 千葉一夫, 山田英夫,  
東京都老人医療センター, 核放部, 内分泌科, 外科

腸管のカルシウム吸収能は加齢とともに減少することが報告されている。我々は高齢者のうち、骨粗鬆症例を含む各種疾患症例の腸管のカルシウム吸収能の変化につき検討したので報告する。

当院入院中の高齢者のうち、骨粗鬆症、副甲状腺機能亢進症および胃癌手術にて部分的切除症例などを対象に行なった。方法は塩化カルシウム20mgにトレース量の<sup>45</sup>CaCl<sub>2</sub>(10μCi)を水に溶解し飲用させ、経時的に採血を行なった。遠心分離後、一定量の<sup>45</sup>Caをカウントした。腸管のカルシウム吸収能はtwo-compartment analysisにて解析した。

高齢者では若年対象者に比して吸収ピーク時間の遅延および低吸収率を示した。骨粗鬆症ではより低い吸収率を示した。小腸の部分切除例では著明に低い吸収率と共に吸収ピーク時間の遅延をみとめた。

本法は加齢と共に増加する骨粗鬆症の腸管の果たす役割や、小腸の部分切除や吻合方法が腸管に与える吸収能の変化の検索などに有用であると考えられた。

#### 412 赤外線分光計を用いた<sup>13</sup>C-呼吸テストの検討

中川禎介, 鈴木敏夫, 大原裕康, 高橋 悟,  
辻野大二郎, 染谷一彦(聖医大 三内)  
佐々木康人(群大 核)

安定同位体である<sup>13</sup>C-グリコロール酸と赤外線分光計を用いての呼吸テストで、我々は、各種実験モデルによる基礎的検討に基づき、吸収不良を呈する患者に対して臨床応用を試みた。日本分光社と共同開発した赤外線分光計を用い、1-<sup>13</sup>C-グリコロール酸を経口投与した患者より採取した呼吸を測定することにより、その病態診断に応用した。本テストを施行した患者は、胆管-結腸瘻、結腸-空腸瘻、回腸末端部狭窄、P.S.S.の以上四症例である。腸管内に、細菌の異常増殖のある様な状態においては、採取した呼吸中の<sup>13</sup>CO<sub>2</sub>/<sup>12</sup>CO<sub>2</sub>同位体比は、投与後、約2時間で上昇し、プラトーを形成した後、下降する曲線を示した。このことより、腸管内での胆汁酸の異常な脱抱合によるミセル形成不全のための脂肪吸収不良が推測された。今後、本装置の安定度及び感度をより鋭敏にし、本テストを広く吸収不良のスクリーニング検査として応用出来るものとしたい。